

町勢振興と少子化対策は

缶詰工場などで雇用を創出



おなが まさひろ
小永 正裕 議員

算を計上する」との町長の答弁であったが、平成28年度当初予算案には少子化対策予算が組まれていない。どうするのか。

雇用と希望出生率の増とは車の両輪みたいなもので、両方が無いと、町勢の前進は期待出来ないのではないか。明確な目標を問う。

答 大西町長

今回の総合戦略は、2060年の人口目標を6800人とする4つの柱があり、基本目標は、

- ①地産外商による雇用創出
- ②新しい人の流れをつくり、転入促進の強化をし、缶詰工場やスポーツ・ツーリズムを雇用創出の事業にする。
- ③若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる。属人的に時系列で、そのたび毎に

問 黒潮町版まち、ひと、しごと地方創生総合戦略はどのような内容のものになったか。
特に町勢振興及び少子化対策、子育て支援策についてこれまでの取り組みと比べて、何が違うのか。具体例を挙げて説明頂きたい。
昨年12月議会で、「子育て政策については、子育て中の世代だけではなく、子育てを終えた世代の要望も非常に強く、意見が多数あがって来ている。3月議会で具体的な予

影響の工事

作物の栽培は出来るか

要望を踏まえ 国交省と調整

ニーズに合う政策を展開して、合計特殊出生率の向上、ならびに子育て支援を図る。
④時代に合う地域をつくり、安全な暮らしを守り、地域間の連携という目標を掲げる。
集落活動センターやあったかふれあいセンターなど、地域の核となる施設の配置強化を行う。また、健康増進の強化、そして地域ぐるみによる安全、安心のまちづくりに取り組む。
少子化対策は2つの施策で対処する。1つ目は、移住者世帯には2人世帯が多いが、中には子どもと移住する世帯もある。そういう世帯の獲得に向けて情報発信をする。2つ目は、合計特殊出生率の向上である。希望出生率とのギャップの原因の否定的要因を一つひとつ削除していく作業を進める。



大方バイパス暫定工事用の排水路

問 国道56号大方バイパス工事の影響に伴う、用排水路、農道などの整備、農地の埋め立てなどの設計、整備計画を問う。耕作者の方々は、今の状況では、主に、用水・排水などの点で作物の栽培、育成に悪影響があるのではと危惧され、場合によっては耕作放棄もあるということだ。

答 森田まちづくり課長

今後どのような計画に基づいて進める予定か。
国道56号大方バイパス工事は、平成23年度に着工したが、現在、全地区が暫定工事中で、用排水路、生活排水も含めて、流末処理が不十分な状況にあり、取水なども非常に苦労されている。今後は、耕作者の方々のご意見、ご要望を踏まえ、農地等に影響が出ないように中村河川国道事務所と十分調整を行ない、事業の進捗をよく図っていく。